消防・救急特集 まちを守る

市民の生命や財産を守るため、消防・救急は、24時間体制で活動しています。毎日、厳しい訓練を重ね、突然の事故・災害の発生に備えます。その活動を、昨年の火災・救急出動の状況と合わせてお知らせします。

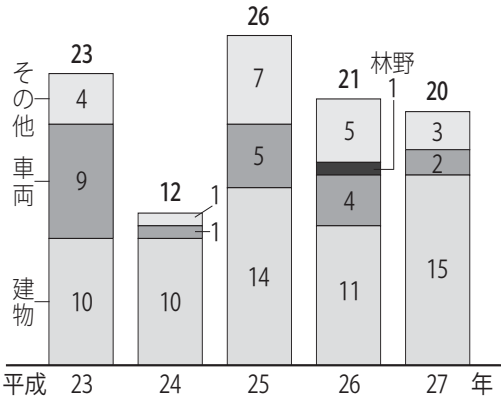
問合せ　消防本部総務課（☎373-3100）

火災から守る

平成27年の火災発生件数は20件、そのうち最も多かったのは建物火災の15件でした。

残念ながら死者が1人、負傷者が2人発生しています。

■火災発生件数と内訳の推移（件）



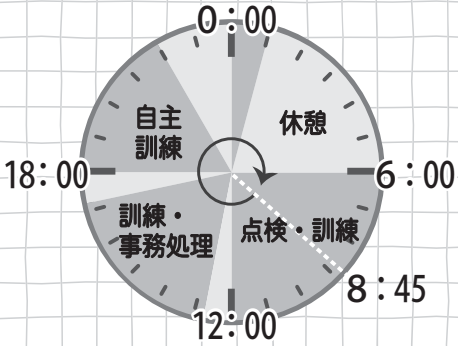
火災の原因としては、たばこ、こんろ、電気配線などからの出火が挙げられます。逃げ遅れを減らすため、住宅用火災警報器を設置しましょう。すでに設置している家庭でも定期的に点検し、電池切れや故障していた場合は、すぐに交換しましょう。

救助担当

吉野消防士の一日

火災で逃げ遅れた方などを救出するのが救助担当。救出後は消火活動にも加わるなど、一人で何役もこなす消防の精鋭部隊です。

その中でも期待の若手・吉野消防士に密着取材しました！



消防士になって３年目の吉野さんは、今年度から救助担当になりました。「中学生のとき、消防士の活躍をドキュメンタリー番組で見てカッコイイ！」と思ったのがきっかけ。

高校生のときには、消防救助技術を競う全道大会の見学までしたそうです。ことし7月には、そのとき見学した大会への出場を予定していて、自主練にも励んでいます。

今はまだ、事故や災害で救助をした経験はないそうですが、「まちが平和だということなので、良いこと」と語ります。いざというときに備え、今日も訓練に余念はありません。

消防1課　吉野駿也

8：45 引き継ぎ交代

業務の引き継ぎから、一日の勤務が始まります。今日は広報の取材を受けることも報告されました。

13：00 人命救助訓練

さまざまな状況を想定して行います。今日は、崖下など低所にいるけが人を救出する訓練を実施。

8：55 車両の点検

迅速に出動できるよう、サイレンや赤色灯など、車両に不備がないか毎朝点検します。

17：15 夕食・休憩

訓練で緊張が続く中、食事の時間は、ほっと一息。体を酷使しているため、濃い味付けの食事です。

9：05 無線試験

車両に搭載する無線は、消防本部にある司令室との通信に必要不可欠。感度が良好か毎朝点検します。

18：00 自主訓練

腰にロープを結び付ける訓練。消防救助の大会へ向けて特訓中。このロープだけで体重を支えます。

9：10 装備の点検

ボンベとマスクをつなぎ、空気が漏れないかなどを点検します。防火衣など一式で、重さは20kg！

22：00 仮眠 119番の受け付け

休憩時に仮眠を取ります。途中、１時間交代で１１９番の受け付けも。この日は0：00～1：00を担当。

引き継ぎを終え、勤務終了。夜間に１度出動しましたが、救助活動が必要な事案ではありませんでした。事故や災害のない日が、長く続くことを願います。

命を守る

平成27年の救急出動件数は、3年連続で2000件を超えました。地区別では、東部地区が最も多く、次いで北広島団地地区と続きます。

消防隊が出動することも

救急出動のときに、消防隊が一緒に出動することがあります。交通事故の現場で二次災害を防止するためや、心肺停止で迅速な救命活動が必要だと判断した場合などです。平成27年は二次災害防止で63件、救命活動で160件の出動がありました。

消防隊が出動する理由

例えば心肺停止などの場合、心臓マッサージのほか、多くの救急資機材を使用して高度な救命処置を行います。と同時に、家族へ状況を説明し、搬送する病院も探さなければなりません。全てを迅速に行うため、救急隊に加えて、消防隊が出動することもあります。

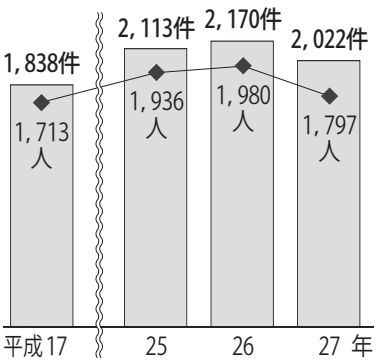
「救急車を呼んだのに消防車が来た」と驚かれることもありますが、ご理解をお願いします。

救急車の適正利用を

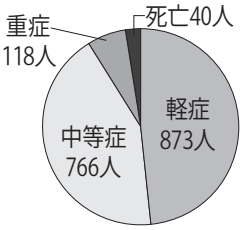
平成27年に、救急出動で病院へ搬送した人数は1797人。そのうち、入院の必要がない軽症者が約半数を占めています。

中には、タクシー代わりに救急車を利用する例も見られました。しかし、救急車の数には限りがあります。不適正利用が増えると、本当に救急車が必要な場合に影響が出るかもしれません。適正利用をお願いします。

■救急出動件数と搬送人数の比較



■平成27年 程度別の搬送人数

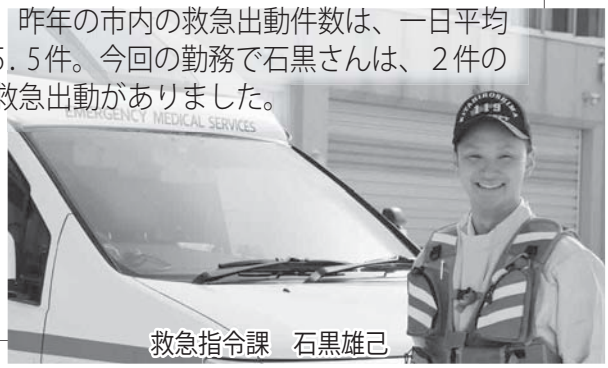


＊ろれつが回らないなど、普段と様子が違うときは、ためらわずに救急車を呼んでください。

父親が消防士だという石黒さん。同じ道を志し、まずは就職後にも役立つ、救急救命士の資格を取ろうと専門学校に通ったそうです。「学生時代、目の前で人が倒れるところに遭遇しました。でも自分は慌てるだけで、何もできず悔しかったです」。これをきっかけに、人命救助に携わりたいという思いが、より一層強まりました。

やりがいを尋ねると「苦しんでいる方を助けることができ、感謝されるとうれしいですね」と語る一方、「間に合わなかったときなど、ご家族が悲しむ姿を見るのはつらいです」。

昨年の市内の救急出動件数は、一日平均5.5件。今回の勤務で石黒さんは、2件の救急出動がありました。



救急指令課　石黒雄己

消防・救急広報ステッカー

皆さん、市内の公共施設やスーパーの休憩スペース・トイレなどで、このステッカーをご覧になったことはありませんか。

救急車の適正利用と住宅用火災警報器設置の必要性について、多くの方へお知らせするために作製しました。自分や大切な人の命を守るため、見掛けたときはチェックしてみてくださいね。

掲示に協力してもらえる事業所を募集しています

詳しくは、救急指令課（☎373-2322）にお問い合わせください。

救急指令課　岡部遼典

自分たちで守る

自分たちのまちは、自分たちで守る――地域の安全と安心のために活動する消防団の精神です。団員は、自営業や会社員など本業の傍ら、防火・防災活動に取り組んでいます。

市全体を総括する本部のほか、東部・北広島団地地区、輪厚地区、大曲地区、西の里地区に4つの分団があります。

消防団は、地域における消防・防災のリーダー。東日本大震災では被害が広範囲に及んだため、地域の実情をよく知る消防団が大きな役割を果たしました。地域の防災力を充実させるために欠かせない存在です。

■第3分団（大曲地区）の車両を更新
昨年12月、防衛省の交付金を活用して小型動力ポンプ付積載車を更新。今後、他の分団の車両も順次更新する予定です。

第3分団団員　小林和雄さん

昨年5月に入団した小林さん。「消防団が人員不足で、機能しなくなる恐れがあるという新聞記事を読み、背中を押されました」と、きっかけを語ります。

東日本大震災で消防団が活動したことは知っていましたが、仕事と両立できるかが心配で、入団をためらっていたそう。「3人の子どもを持ち、地域の防災について真剣に考えるようになりました。悩むのはやめて、まずは入団してみることに」と話す表情は、とても力強いものでした。

消防団員は随時募集しています

入団資格は、市内にお住まいで心身ともに健康な18歳以上。住んでいる地区の分団に所属し、活動します。現在、大曲と輪厚地区で団員が不足しています。詳しくは、消防本部総務課（☎373-3100）にお問い合わせください。

紙芝居を使った防火教室。女性団員も活躍しています！

消防・救急では日々訓練を重ね、火災や事故、災害の発生に備えています。しかし、地域の安全と安心を守るには、消防団をはじめとした地域の皆さんの力が不可欠です。まずは私たち一人一人が、できることから始めてみませんか。

消火用資機材の小型動力ポンプは、持ち運びもできます。

エンジンカッターやチェーンソー、担架、応急処置セットなど救急救助活動用の資機材を装備し、幅広い災害活動に対応します。

あなたの家は大丈夫？　日頃の点検が火災を防ぎます

電気器具は、不注意や不適切管理が火災の原因！

電気器具は、私たちの生活を便利にしてくれる一方、使い方を誤ると火災の原因にもなります。

平成26年に全国で発生した火災のうち、発火源別の死者数では、電気ストーブや電気器具などの電気関係火災が全体の24％を占めています。

主な原因としては、使用者の不注意や不適切な管理が挙げられます。

■火災防止のポイント

- ●タコ足配線をしない
- ●電気コードを束ねない
- ●電気コードに重いものを乗せない
- ●電源プラグに、ほこりをためない

灯油のホームタンクは、日頃からの点検が重要！

灯油は、北国での生活に必要不可欠なものですが、引火性がある危険物です。取り扱いを誤ると、大きな火災につながる恐れがあります。

ホームタンクには、数百リットルの灯油が貯蔵されています。万が一流出した場合、火災の危険が高まるだけでなく、下水道への流入や河川の汚染など、大きな影響を及ぼします。日頃からの点検で、事故を未然に防ぎましょう。